

(一般社団法人)日本歯科医学会連合主催

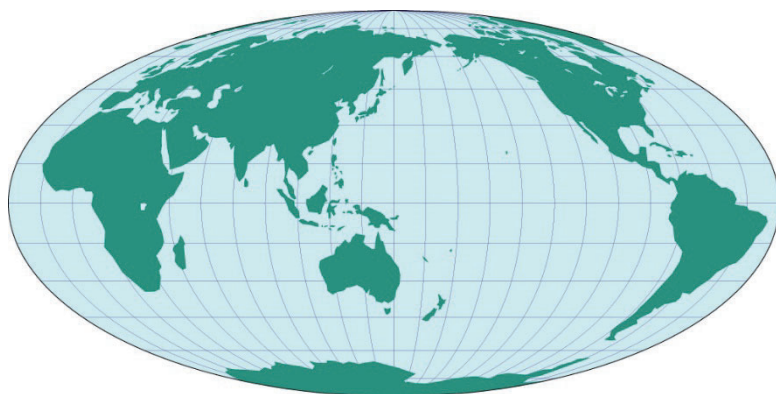
フォーラム

歯学領域における 国際的人材育成と学会活動

抄 録

2021 年 1 月 28 日(木) 13:00~15:00

オンライン開催



フォーラム「歯学領域における国際的人材育成と学会活動」開催にあたり

国際活動委員会は、その活動の柱として1. 海外に向けた会員学会の紹介、2. 留学生の会員学会への参加啓発と交流の活性化、3. 会員学会のための国際的人材育成の3つを掲げ、井上孝前委員長の下では、各会員学会の概略の英文化、留学生フォーラムの開催などを行って参りました。

令和元（2019）年度は国際的人材育成に着目し、「国際的人材育成に関する調査」を、各会員学会を対象に実施させていただき、その結果を報告書（日・英）としてまとめ、当会ホームページ上で公開しています。

令和2（2020）年度は上記調査報告書提言でも触れたように、会員学会間の情報共有と、会員学会の国際活動に資する支援の在り方について展望することを目的に、この度「歯学領域における国際的人材育成と学会活動」と題したフォーラムをオンラインで開催させていただくことになりました。

国際活動や国際的人材育成に関心の高い会員学会の中から、歯科基礎医学会、日本歯科保存学会、日本老年歯科医学会、日本口腔外科学会、日本矯正歯科学会の5つの会員学会よりパネリストをご推薦いただき、それぞれの学会における国際化に向けた取り組みのご紹介や国際化を推進するにあたっての課題、日本歯科医学会連合に求める支援などについてご発表いただいた後、パネルディスカッションの場を設け、議論を深めてまいりたいと思います。

今年度はCOVID-19感染拡大により、学術大会の開催や学会活動にも大きな影響が出ていると思われませんが、このような状況だからこそ、異なる視点や新しい発想が生まれることを期待して、皆様のフォーラムへのご参加を心よりお待ちしております。

一般社団法人日本歯科医学会連合

国際活動委員会	委員長	森尾 郁子（東京医科歯科大学）
	副委員長	富士谷 盛興（愛知学院大学）
	委員	藤井 万紀子（広島大学）
	委員	ステガロユ・ロクサーナ（新潟大学）
	幹事	關 奈央子（東京医科歯科大学）

プログラム

1.開会の辞 森尾 郁子委員長

2.ご挨拶 住友 雅人理事長

3.各学会の国際活動 (司会 森尾 郁子委員長)

①歯科基礎医学会： 兼松 隆 先生（九州大学）

「歯科基礎医学会：学会活動における国際交流」

②日本歯科保存学会： 保坂 啓一 先生（東京医科歯科大学）

「グローバル活躍人材育成の教育現場から学会活動を考える」

③日本老年歯科医学会： 松尾 浩一郎 先生（藤田医科大学）

「日本老年歯科医学会における国際的学会活動と人材育成プラン」

④日本口腔外科学会： 古郷 幹彦 先生（大阪大学）

「国際医療協力活動」

⑤日本矯正歯科学会： 新井 一仁 先生（日本歯科大学）

「日本矯正歯科学会の国際交流活動」

4.パネルディスカッション

国際的人材の定義 (司会 ステガロユ・ロクサーナ委員)

Afterコロナ時代の国際的人材育成のあり方 (司会 藤井 万紀子委員)

各会員学会の国際化への取り組みへの支援のあり方 (司会 富士谷 盛興副委員長)

5.閉会の辞 川口 陽子副理事長

1. 歯科基礎医学会：学会活動における国際交流



(一般社団法人) 歯科基礎医学会
常任理事 国際交流委員会委員長
兼松 隆 先生

【ご略歴】

- 1990年 3月 九州大学歯学部 卒業
- 1990年 4月 九州大学 大学院歯学研究科 博士課程 入学
- 1994年 3月 同大学院 修了
- 1994年 4月 九州大学 歯学部 口腔生化学 助手
- 1995年 4月 米国 バンダービルト大学 分子生物学教室 博士研究員（九州大学休職）
- 1997年 3月 九州大学 歯学部 口腔生化学 助手（復職）
- 1998年 7月 九州大学 歯学部 口腔生化学 助教授
- 2000年 4月 九州大学 大学院歯学研究院 口腔細胞工学分野 助教授
- 2007年 4月 九州大学 大学院歯学研究院 口腔細胞工学分野 准教授
- 2009年 2月 広島大学 大学院医歯薬学総合研究科 歯科薬理学 教授
- 2012年 4月 広島大学 大学院医歯薬保健学研究科 細胞分子薬理学 教授
- 2018年 5月 一般社団法人歯科基礎医学会 常任理事 国際交流委員会委員長
- 2019年 4月 九州大学 大学院歯学研究院 口腔機能分子科学分野 教授（現在に至る）
- 2019年 7月～2020年3月 広島大学 クロスアポイントメント 特任教授
- 2020年 6月 一般社団法人歯科基礎医学会 常任理事 国際交流委員会委員長（現在に至る）



講演抄録

歯科基礎医学会は、昭和33年（1958年）に発足し、歯学基礎系の7つの分野（解剖学分野、組織発生学分野、生理学分野、生化学分野、薬理学分野、微生物学分野、病理学分野）が本学会活動を通して相互に交流することで、生命科学の発展に機能的かつ総合的に貢献し、歯科基礎医学から歯科臨床に寄与することを目指して学会活動を行っている。世界に目を向けると、基礎歯科医学における学会活動をこのような形態で行っているのは、我々や韓国歯科基礎医学会（2001年発足）に限られている。歯科基礎医学会と韓国歯科基礎医学会とは、2014年9月26日に学術交流協定を締結して、互いの学術大会において日韓シンポジウムを開催するなどの学術交流を行っている。

歯科基礎医学会では、学会活動の国際化の議論を進めているものの、その取り組みにはいくつかの課題がある。特に、近年、留学生（学生会員）の割合が増加しており、学会として学術大会における国際化対応に取り組むことが急務である。本シンポジウムでは、歯科基礎医学会のこれまでの国際化への取り組みを紹介して、学会活動における国際交流についてパネリストや参加者とディスカッションを行いたい。

Abstract

The Japanese Association for Oral Biology (JAOB) was established in 1958 in order to conduct collective management of the seven fields of basic dental sciences: Anatomy, Histonomy, Physiology, Biochemistry, Pharmacology, Microbiology, and Pathology. JAOB is a unique organization from a global standpoint, which integrately operates the seven fields of the basic dental sciences to promote oral biomedical sciences. The Korean Basic Dental Science Society Association (established in 2001 and currently renamed the Korean Association of Oral Science, KAOS) and JAOB are associations having similar aim of establishment. Therefore, JAOB concluded an agreement with KAOS on September 26th, 2014 to promote academic exchange, and to develop amicable and cooperative relations between the two associations. Japan-Korea international symposium in an annual meeting is mutually held in every year.

JAOB has several agendas in promoting the internationalization of JAOB's operation. For example, an urgent issue is full support in English in an annual meeting, because the JAOB members of international Ph.D. students is increasing. In the forum, I will present our past efforts and discuss issues in internationalization with panelists.

2. グローバル活躍人材育成の教育現場から学会活動を考える



(特定非営利活動法人) 日本歯科保存学会
評議員
保坂 啓一 先生

【ご略歴】

- 2003年 東京医科歯科大学歯学部 歯学科卒業
- 2005年 米国ジョージア医科大学歯学部 客員研究員
- 2007年 東京医科歯科大学大学院 博士課程修了（歯学博士）
- 2007年 東京医科歯科大学歯学部 附属病院医員
- 2008年 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 う蝕制御学分野特任助教
- 2009年 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 う蝕制御学分野助教
- 2018年 英国ロンドン大学キングス・カレッジ客員講師

所属学会他

- 日本歯科保存学会（評議員）
- 日本接着歯学会（代議員，総務幹事、国際交流委員会委員、研修検討委員会委員、財務委員会委員）
- 日本歯科審美学会（国際渉外委員会、学術講演会委員）
- 日本歯科理工学会
- American Academy of Cosmetic Dentistry
- 国立大学附属病院長会議 国立大学病院国際化担当者会議 国際化担当
- 東京医科歯科大学歯学部附属病院 国際化ワーキンググループ座長



講演抄録

日本歯科保存学会は、これまで長年に渡り、韓国・台湾・トルコの歯科保存学会と協定を結び、学術大会の演者を派遣および招待するなど、各国学会間での、研究・臨床・教育の国際学術交流を推進してきました。過去には中国・フィリピンとの間にも交流がありました。世界的規模で急速に進む超高齢化トレンドにおいて、歯科保存学はますますその重要性を増すと予想されます。よって、今後世界との結びつきを強め活躍するグローバルリーダーを輩出していくことが学会の使命として大きく期待されます。オンライン学会やバーチャルセミナーなど、さまざまな学術交流機会を提案し、若き学会員に経験の場を多く提供していくことが重要です。一方、大学や研究機関でも、組織の力および構成員の持つ国際的な人脈や経験を活かして国際的人材育成の様々な取り組みが行われ、一定の成果をあげています。演者の所属大学での歯科医学領域における国際的人材育成の取り組みについてご紹介させていただきながら、実際の教育現場への学会による支援について、国際的人材育成の一つのあり方として考えてみたいと思います。

Abstract

The Japanese Society of Conservative Dentistry (JSCD) has promoted international activities for many years through signed agreements with the Korean Academy of Conservative Dentistry, the Taiwan Academy of Operative Dentistry, the Turkish Society for Adhesive Dentistry, and the Turkish Society of Restorative Dentistry. Also, JSCD has been in a good relationship with the Chinese and Philippines' academic associations. The cooperation has mainly comprised guest speakers' invitation to academic conferences to stimulate an international academic exchange between the societies in research, clinical dentistry, and dental education.

Since conservative dentistry is becoming increasingly important due to the global trend toward “super-aged” societies, it is highly anticipated that JSCD will develop global leaders who will strengthen ties with overseas countries and play an active role in shaping the future of dentistry. Therefore, JSCD proposed various academic exchange opportunities, such as online lectures and virtual reality courses, to attract young academic members.

Besides the activities of JSCD, universities and research institutes have made various efforts to develop international collaboration and achieved specific results by using the organization's reputation and personal connections of their members. Academic societies' participation in such activities could support universities and research institutes' efforts while providing a feasible international human resource development for the academic societies themselves. In this presentation, the international human resource development program of Tokyo Medical and Dental University will also be introduced.

3. 日本老年歯科医学会における国際的学会活動と人材育成プラン



(一般社団法人) 日本老年歯科医学会
国際渉外担当常任理事
松尾 浩一郎 先生

【ご略歴】

- 1999年 東京医科歯科大学歯学部 卒業
- 2002年 Post Doctoral Research Fellow, Department of Physical Medicine and Rehabilitation, Johns Hopkins University
- 2004年 東京医科歯科大学大学院修了 歯学博士
- 2005年 Assistant Professor, Department of PM&R, Johns Hopkins University
- 2008年 松本歯科大学 障害者歯科学講座 准教授
- 2013年 藤田保健衛生大学 医学部 歯科 教授
- 2018年 藤田医科大学 医学部 歯科・口腔外科学講座 教授

- 2018年 日本障害者歯科学会 国際渉外（iADH担当）理事（～現在）
- 2020年 日本老年歯科医学会 国際渉外担当 常任理事（～現在）

- 2008年- Adjunct Assistant Professor, Johns Hopkins University
- 2018年- International Association of Dentistry and Oral Health, International councilor
- 2018 - 20年 Dysphagia Research Society, Board member



講演抄録

日本老年歯科医学会（Japanese Society of Gerodontology, JSG）は、世界に先駆けた超高齢社会の老年歯科医学に関わる代表学会として、海外の老年歯科医学関連学会と良好な関係を形成してきた。特に、ヨーロッパの老年歯科医学会（European College of Gerodontology, ECG）および台湾老年歯科医学会（Taiwan Association of Geriatric Dentistry, TAGD）とは現在MoUを締結している。ECGの学術大会では、近年毎年JSGとの共同シンポジウムを開催し、TAGDとは合同サミットを開催して最新の知見を交換してきた。本学会では、若手歯科医師の国際的人材育成のために、他の国際学会との合同シンポジウムなどで、若手歯科医師の発表の場を提供できるように積極的に企画している。若い頃から国際学会の場で発表することで、国際的な学術交流の機会を得ることができ、また海外留学のチャンスを得ることも可能となる。afterコロナの時代では、Webを活用した国際学会が多く開催されるようになり、海外で発表できる機会はますます身近なものになるであろう。今後も、高齢社会のleading countryとして、若手歯科医師が質の高い発表を国際的に発信できるような場を提供していきたいと考える。

Abstract

Japanese Society of Gerodontology (JSG) has established good academic relationships with the other societies in foreign countries as the representative society in a leading country for super-aged society. In particular, JSG have exchange the MoU with European College of Gerodontology (ECG) and Taiwan Association of Geriatric Dentistry (TAGD). ECG-JSG joint symposiums in ECG conferences and TAGD-JSG summits have been recently held. To encourage young researchers to present their research at the international conferences, we have provided the opportunities for them to present in those joint symposiums. In coming after COVID-19 era, the conference style must be shifted to utilize the web tools more often, which diminish the barrier of the physical distance and shorten the social distance with the other international academia. As a leading country for super aged society, JSG would like to provide the opportunities of developing international human resources.

4. 国際医療協力活動



(公益社団法人) 日本口腔外科学会
元理事長
古郷 幹彦 先生

【ご略歴】

1980年 3月 大阪大学歯学部 卒業

1984年 3月 大阪大学大学院歯学研究科 修了 歯学博士

1988年 4月 大阪大学歯学部 助手

1992年4月~1994年3月 文部省長期在外研究員乙

アメリカ合衆国カリフォルニア大学ロサンゼルス校神経科学

2002年 8月から現在 大阪大学大学院歯学研究科教授 口腔外科学第一教室

2015年4月 大阪大学歯学部附属病院副病院長 (現在)

2018年4月 大阪大学歯学部附属病院口唇裂・口蓋裂口腔顔面成育治療センター センター長

その他

2016年11月~2018年11月 (公社)日本口腔外科学会理事長

2019年6月 (一社)日本口蓋裂学会理事長



講演抄録

日本口腔外科学会は古くより口腔外科の国際連携に力を入れている。国際口腔顎顔面外科学会の中核メンバーとして口腔外科の国際的发展に寄与している。またアジア口腔顎顔面外科学会の設立からリードしている。国家間としては1986年より続く韓国をはじめ台湾、フィリピン、モンゴル、中国、ネパール、インド各国の口腔外科学会と姉妹協定を結び、学術集会時などに相互訪問している。米国、ドイツ、ヨーロッパ各口腔外科学会とは学術集会共同開催、相互発表などを行っている。若手育成にこれらの現地学術集会において発表をさせている。毎年秋の本学会学術集会においてこれらの国を招待し、国際シンポジウムを開催し若手交流の場となっている。国際医療協力活動に若手を同行させ国際的人材に育てるべく教育を行っている。本学会が支援を行っている派遣医療活動は過去3年間で6か国のべ17グループとなっている。口腔外科の国際水準を認めるための国際機関の設立に協力し、国際専門医制度開始に伴い2015年第一回試験を大阪で行った。これまで5回試験が行われ、我が国からは90名の合格者を出しており、今後の国際的活躍が期待される。

Abstract

The Japanese Society of Oral and Maxillofacial Surgeons has long been focusing on international collaboration in oral and maxillofacial surgery. As a core member of the International Association of Oral and Maxillofacial Surgeons, we contribute to the international development of oral and maxillofacial surgery. We have also been a leader since the establishment of the Asian Society. As for nations, they have signed sister agreements with the Oral Surgery Society of many Asian countries, and visit each other at academic meetings, also with the US, German, and European Association for Cranio Maxillo-Facial Surgery. These countries have been invited to our annual academic meeting in autumn every year, and an international symposium has been held, which is a place for young people to interact. We are educating international human resources to accompany young people to international medical cooperation activities. In the past three years, the number of dispatched medical activities supported by the Society has been 17 groups in 6 countries. In cooperation with the establishment of an international organization to recognize the international standard of oral and maxillofacial surgery, the first examination in 2015 was conducted in Osaka with the start of the international specialist system. The examination has been conducted five times so far, and 90 successful applicants have been issued from Japan, and it is expected that they will play an active role internationally in the future.

5. 日本矯正歯科学会の国際交流活動



(公益社団法人) 日本矯正歯科学会
常務理事・国際渉外委員会委員長
新井 一仁 先生

【ご略歴】

- 1987年 日本歯科大学 歯学部 卒業
- 1993年 日本歯科大学 大学院歯学研究科 歯科矯正学専攻 修了
- 1997年 日本歯科大学 歯学部歯科矯正学教室 講師
- 2000年～2001年 Harvard School of Dental Medicine, Department of Growth and Development (Orthodontics), Visiting Assistant Professor
- 2007年 Active Member at Large, Eastern Component of the Edward H. Angle Society of Orthodontists
- 2008年 日本歯科大学 生命歯学部歯科矯正学講座 准教授
- 2009年 日本歯科大学 生命歯学部歯科矯正学講座 教授
- 2010年 日本矯正歯科学会国際渉外委員会 委員
- 2012年 日本矯正歯科学会理事
- 2016年 日本矯正歯科学会常務理事
- 2018年 日本矯正歯科学会国際渉外委員会 委員長
- 2020年 東京矯正歯科学会会長



講演抄録

公益社団法人日本矯正歯科学会（JOS）では、主に学術大会の機会に関連団体と国際交流活動が設けられてきている。今回は、以下の3つを紹介する。

1. 大韓歯科矯正学会（KAO）との日韓ジョイント・シンポジウム

日韓ジョイント・シンポジウムは2006年に始まり、隔年の学術大会で交互に開催されてきている。毎回異なるテーマを設けて双方から2~3名の講演者を派遣している。

2. 中華民国歯顎矯正学会（TAO）とのレジデントの交換

2017年10月に覚書が交わされた。お互いの学術大会に指導者1名とレジデント2名を招待する。レジデントは相手方の学術大会に参加して学術発表を行ってきている。

3. 第9回国際矯正歯科会議（9th IOC）におけるレジデント・フォーラム

世界矯正歯科連盟（WFO）によって1995年から5年ごとに開催されている国際矯正歯科会議（the International Orthodontic Congress, IOC）。その第9回が、JOSの第79回学術大会に加えてアジア太平洋矯正歯科学会の第12回アジア太平洋矯正歯科会議とともに、アジアで初めて昨年10月に開催された。参加者は93の国と地域から約6,300名で、うち約1,300名が学生だった。レジデント・フォーラムには、50の国と地域から337演題の応募があった。

Abstract

The Japanese Orthodontic Society (JOS) has established international exchange activities with related orthodontic societies in other countries and regions mainly through annual meetings. This presentation will introduce three of these international exchange activities.

1. Joint Symposium with the Korean Association of Orthodontists (KAO)

The JOS-KAO Joint Symposium started in 2006 and has been held biannually during the annual meeting of the JOS or KAO, alternating between the annual meetings of each organization. A different theme is set for each symposium and two or three speakers are selected from both organizations.

2. Resident exchange program with the Taiwan Association of Orthodontists (TAO)

The resident exchange program was established with the signing of a memorandum of understanding in October 2017. According to this program, one instructor and two residents are invited to attend the other organization's academic conference. Furthermore, residents are invited to attend and present at the annual meeting of the other organization.

3. Resident forum at the 9th International Orthodontic Congress (9th IOC)

The International Orthodontic Congress (IOC) has been held by the World Federation of Orthodontists (WFO) every five years since 1995. The 9th IOC, combined with the 79th JOS Annual meeting and the 12th Asia-Pacific Orthodontic Conference, was held for the first time in Asia last October. There were about 6,300 participants from 93 countries and regions, of which about 1,300 were students. The Resident Forum received 337 submissions from 50 countries and regions.